

順天堂大学医学部附属病院群

小児科専門研修プログラム

目次

1. 順天堂大学医学部附属順天堂医院小児科専門研修プログラムの概要※
2. 小児科専門研修はどのようにおこなわれるのか※
3. 専攻医の到達目標
 - 3-1 修得すべき知識・技能・態度など
 - 3-2 各種カンファレンスなどによる知識・技能の習得
 - 3-3 学問的姿勢
 - 3-4 医師に必要なコアコンピテンシー、倫理性、社会性
4. 施設群による研修プログラムと地域医療についての考え方※
 - 4-1 年次毎の研修計画
 - 4-2 研修施設群と研修プログラム
 - 4-3 地域医療について
5. 専門研修の評価
6. 修了判定
7. 専門研修管理委員会
 - 7-1 専門研修管理委員会の業務
 - 7-2 専攻医の就業環境
 - 7-3 専門研修プログラムの改善
 - 7-4 専攻医の採用と修了
 - 7-5 小児科研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件
 - 7-6 研修に対するサイトビジット（訪問調査）
8. 専門研修実績記録システム、マニュアル等
9. 専門研修指導医
10. Subspecialty 領域との連続性

※本小児専門研修の特徴をお知りになりたい方はまず 1、2、4 の項目をお読みください。

順天堂大学医学部附属病院群

小児科専門研修プログラム

1. 順天堂大学医学部附属病院群小児科専門研修プログラムの概要

～基幹施設 順天堂大学医学部附属順天堂医院～

【病院の概要】

「順天堂」の歴史は、天保9年（1838年）初代堂主佐藤泰然が江戸・薬研堀に蘭学塾を開いた時に遡ります。そして順天堂は医育機関を併設した西洋医学の医療機関として、日本で最も長い歴史と伝統を持っています。また2015年には国内の大学病院本院で初めての国際認証（JCI）施設（国際基準をクリアした施設）として認可され、海外からの受診患者も増えています。内科系、外科系全ての診療科を有し、かつ内科・外科ともに細分化され各分野のスペシャリストが揃っています。国内最大規模の小児外科、小児脳外科疾患の経験が豊富な脳神経外科、先天性心疾患の手術件数も多い心臓血管外科、胎児期からのサポートに力を入れている産科のほか、整形外科、眼科、耳鼻咽喉科、形成外科など、国内屈指の高い技術と豊富な経験を有する小児に関連する外科系診療科の層が非常に厚いことも、多彩で豊富な小児患者が集まり高いレベルの小児医療を提供できている理由です。



【研修プログラムの目標】

小児科医は成長、発達の過程にある小児の診療のため、正常小児の成長・発達に関する知識が不可欠であり、新生児期から思春期まで幅広い知識と、発達段階によって疾患内容が異なるという知識が必要です。さらに小児科医は general physician としての能力が求められ、そのために、小児科医として必須の疾患をもれなく経験し、疾患の知識とチーム医療・問題対応能力・安全管理能力を獲得し、家族への説明と同意を得る技能を身につける必要があります。

本プログラムでは、「小児医療の水準向上・進歩発展を図り、小児の健康増進および福祉の充実に寄与する優れた小児科専門医を育成する」ことを目的とし、一定の専門領域に偏ることなく、幅広く研修します。専攻医は「小児科医は子どもの総合医である」という基本的姿勢に基づいて3年間の研修を行い、「子どもの総合診療医」「育児・健康支援者」「子どもの代弁者」「学識・研究者」「医療のプロフェッショナル」の5つの資質を備えた小児科専門医となることを目指して下さい。

以下に特に本プログラムで強調したい目標（マニフェスト）を掲げます。

- 1) 大学附属病院、一般関連病院、小児病院、新生児センターなどで多くの疾患を経験し、多くの指導医から指導を受ける。
- 2) 極低出生体重児の管理や小児救急疾患の対応がスムーズに行える。
- 3) 臨床において必要な以下のテクニックを少なくともひとつは習得する。
 - (1) エコー検査（心臓、腹部）
 - (2) 脳波、ポリグラフ判定
 - (3) 発達検査（WISC-III、Bayley、K-ABC など）
 - (4) 内視鏡検査（消化管、気管支）
 - (5) 生検（肝臓、腎臓）
- 4) 学会発表や論文作成も十分に経験し、入局後3年目に受験する専門医試験に1回で合格する。
- 5) 希望があれば Subspecialty（専門）領域の基本を学び、より多くの症例を経験する。
- 6) 希望があれば大学院に入学し、学位取得を目指すと共にリサーチマインドを養う。



【研修プログラムの特徴】

1) 小児科の全ての領域や疾患に対する診療グループがあり、外科系も充実しています。

順天堂医院小児科は、消化器、免疫・アレルギー・膠原病、神経、血液・腫瘍、循環器、栄養、新生児、感染症、内分泌、腎・泌尿器、肝臓・代謝、発達・児童精神の12の専門分野を持ち、それぞれ経験豊富な専門医が常駐し、臨床・教育・研究に携わっています。これは大学病院小児科には稀な専門分野の広さです。そしてこれらの責任者はすべて小児科専門医・小児科指導医の資格を有しているため、より深い知識の習得や経験を積むことが出来ます。



周術期を支える小児科医のきめ細かい、そしてエビデンスに基づく全身管理の体制と、充実した指導体制が大きな特徴です。また前述した外科系診療科など各科との密接な連携やスタッフ、各分野の指導医の多さも当プログラムが充実するための重要な研修環境を構築しています。

なお順天堂医院は日本てんかん学会教育認定施設、日本小児循環器専門医修練施設、小児血液がん専門医研修施設、日本周産期・新生児医学会新生児専門医研修施設、日本感染症学会認定教育施設、アレルギー専門医教育研修施設、日本消化管学会胃腸科指導施設、日本病態栄養学会病態栄養専門医認定教育施設、日本内分泌学会内分泌代謝科専門医（小児科）認定教育施設であり、順天堂大学附属浦安病院は日本周産期・新生児医学会新生児専門医研修施設、アレルギー専門医教育研修施設、順天堂大学附属静岡病院は日本周産期・新生児医学会新生児専門医研修施設です。

2) 充実した教育・指導体制を熱意ある指導医が提供します。

熱意ある指導医による手厚い指導のもと、病棟医あるいは外来医として臨床の研鑽を積みながら、数多く設定されたカンファレンス、多分野の勉強会や研究会、海外論文抄読会などに参加し、視野を広げるとともに最先端の医療に触れます。これらを通して症例検討や臨床研究を行い、学会発表や論文作成などの経験を積んでいきます。これらの「多岐にわたる教育・指導体制」が本プログラムの大きな特徴と言えます。そして専攻医教育のみならず、医学部学生や初期研修医に対する指導体制も充実しており、これらの教育を経験しながらさらに知識を深めていきます。カンファレンスや勉強会の発表など、学ぶ機会が大変多いプログラムであることは自信を持ってお約束出来ます。本プログラムを構成する順天堂大学医学部附属病院群では、常にこの臨床・教育・研究の3本柱を並行して行うことが伝統的に確立されています。



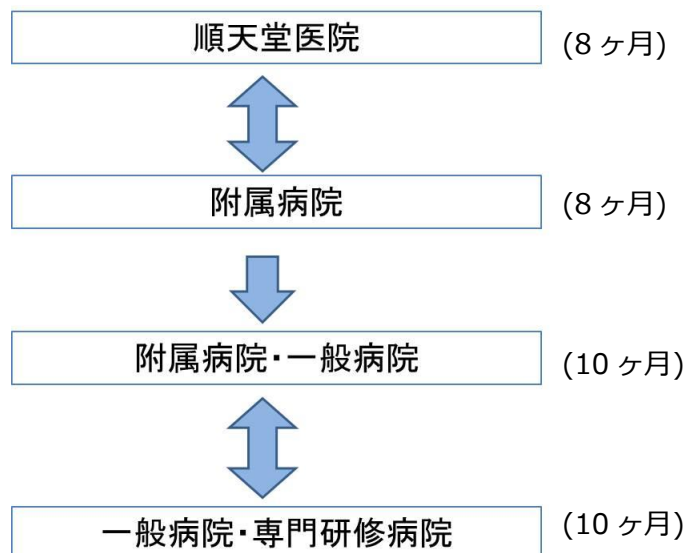
3) 豊富な研修病院群で特色のある研修が受けられます。

本プログラムの研修病院群は、基幹病院である順天堂医院のほか、3つの順天堂附属病院と5つの都内一般病院、埼玉および茨城県の4つの地域一般病院、さらには小児病院を含む9つの専門研修病院それぞれからなり、専攻医は36ヶ月間の研修期間中にこれらの病院群を一定期間ローテーションします。

研修1年目は基幹施設である順天堂医院において8ヶ月、4病棟グループをローテーションし、高度な専門性の高い医療を中心に1次から3次までの救急医療を含めた研修を行います。また各病棟グループをローテーションしている際にも新入院患者カンファレンス、退院患者症例検討会や各種勉強会などの教育的イベントはすべて合同で行われるため、偏りのない幅広い研修を行うことが可能です。また、毎年1年目を対象に院内で「新生児蘇生法（NCPR）講習会（専門コース）」や「感染症 Basic Lecture」などを開催しています。

研修1～2年目は附属病院1施設での研修を8ヶ月間行います。ここでは専門性の高い疾患のみならず、小児の common disease も経験し、並行して1次から3次までの救急医療を含めた研修を行います。

研修2～3年目は附属病院1施設または連携施設である一般病院において感染症を中心とした小児の common disease を数多く経験し、同時に1次から3次までの救急医療を含めた研修を行います。また希望に応じて専門性の高い研修を小児病院や他大学附属病院などで行うことが可能です。

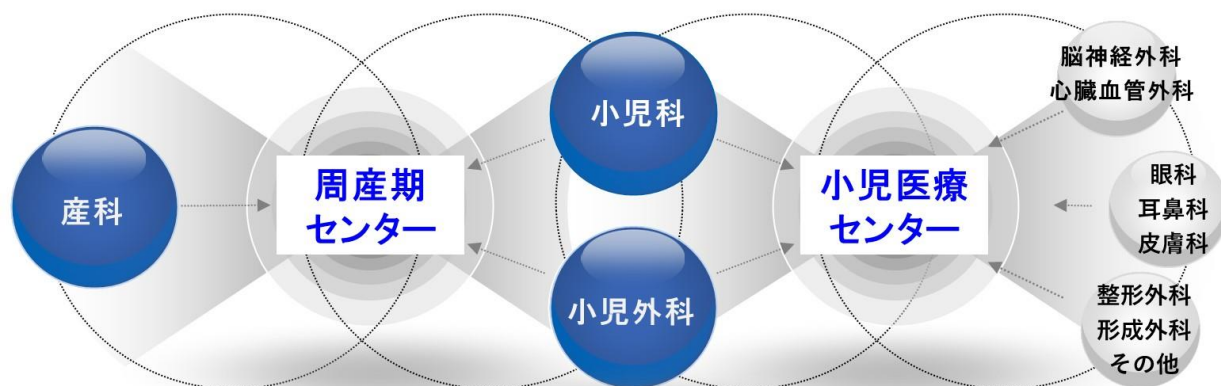


4) 小児医療センターおよび周産期センターにおいて小児のチーム医療を学びます。

低出生体重児のインタクトサバイバルを目指すことは大変重要な課題であり、これを達成するために ①周産期における産科、新生児科の連携をスムーズな形で行うことを目的として周産期センターを、②小児科、小児外科を中心に脳神経外科、心臓血管外科など外科的治療を要する児に対する連携強化を目的として小児医療センターを運用することにより、順天堂医院の新生児・小児患者に対する包括的な周産期医療、小児医療の提供が実践されています。

具体的には妊娠期間から出産後の母親や出生した児に対して高度な最新医療や他施設で行うことのできない手術によって救命するのみならず、母乳栄養や脂肪酸強化乳などによる栄養面でのサポートを行ったり、心理士やCLS、発達を専門とする医師による支援により、母親の心理的サポートや児の認知発達の促進を心掛けています。専攻医はこれらの周産期センターおよび小児医療センターで研修を行うことによって小児のチーム医療の重要性を学びます。

順天堂医院



5) 小児消化器専門研修コースを設置しています。

順天堂大学小児科では歴代の教授が小児の消化器病を専門としているため、我が国でも屈指の小児消化器病研修施設となっており、指導体制も充実しています。従って、36ヶ月の研修期間中に順天堂医院、国立成育医療研究センター消化器科、昭和伊南総合病院などで小児消化器病全般を研修し、内視鏡のトレーニングを受け、茨城県立こども病院で腹部超音波診断のトレーニングを受けることが可能です。将来小児の消化器病を subspecialty としたい人は是非お選びください。



6) その他、臨機応変に研修コースの設定を行います。

他大学からの入局者の方が順天堂大学出身者より多いため学閥はなく、また毎年10名以上の入局者があるため人事に余裕があり、女性医師の産休や育休に対しては医局として十分なサポート体制を提供することができます。

順天堂大学附属病院群での初期研修を行った場合は、継続して初期研修を行った病院で専攻医研修を開始することも可能です。

東京都地域枠出身者にも十分配慮した36ヶ月間の都内での研修を他の専攻医と同様に行うことができます。

若い時期から基礎研究あるいは臨床研究に触れ、リサーチマインドを涵養することは、その後の小児科医としての臨床の幅や奥行きを広げるには大切なことです。その意味からも36ヶ月の研修中に大学院に入学したり、留学の準備を進めることを強く推奨しています。将来留学を希望する場合は、月に70万円の留学費用の支給制度のある連携病院での研修を勧めています。



7) 専門医取得のために親身になって指導を行います。

3年間の当プログラムでの研修を通して、小児科医として経験しておくべき様々な分野の疾患を漏れなく経験し、また小児科医として欠くことのできない救急疾患の対応、急性疾患の管理、および外来での乳児健康診査と予防接種などの小児保健・社会医学の研修を担当医として経験することができます。

36ヶ月の研修後に小児科専門医を目指しますが、各専門分野の責任者、各連携施設の責任者による症例要約のチェックや論文作成の指導などの徹底した専門医取得のための指導体制が整っており、安心して専門医取得に臨めます。実際これまでの専門医合格率は、全国平均に比べはるかに良い成績を残しています。



8) 専門医取得後の進路はアズユーライクを保障します。

専門医を取得し、小児科のジェネラリストとなった後の進路は、それぞれが希望する進路を学術的にも、また社会的にも十分に保障し、病院群としてサポートを行います。すなわち、専門性（Subspecialty）を極めたい人、大学院での研究や留学を目指している人、地域医療に従事したい人、ひとまず子育てに専念したい人などそれぞれの要望に応じ、アズユーライクのキャリアパスを提供していきます。高度な専門性を極めるのに必要な施設ならびに人材が豊富であること、大学院が充実しており毎年6～10名の医師が大学院に入学していること、多くの留学経験者がスタッフとして指導に当たっていること、地域医療を行うための施設や同門会会員が多数存在すること、病院群には200名近い医師が在籍し、産休や育休を取っている20名近くの女性医師のサポートが十分に行えていることなどが、アズユーライクを現実のものとしている大きな理由です。



2. 小児科専門研修はどのように行われるか

3年間の小児科専門研修では、日本小児科学会が定めた「小児科医の到達目標」のレベルAの臨床能力の獲得をめざして研修を行います。到達度の自己評価と指導医からのアドバイスを受けるために、「小児科専門研修手帳」を常に携帯し、定期的に振り返りながら研修を進めて下さい。

- 1) **臨床現場での学習** 外来、病棟、健診などで、到達目標に記載されたレベルAの臨床経験を積むことが基本となります。経験した症例は、指導医からフィードバック・アドバイスを受けながら、診療録の記載、サマリーレポートの作成、臨床研修手帳への記載（ふりかえりと指導医からのフィードバック）、臨床カンファレンス、抄読会（ジャーナルクラブ）、CPCでの発表などを経て、知識、臨床能力を定着させます。
 - 「小児科専門医の役割」に関する学習：日本小児科学会が定めた小児科専門医の役割を3年間で身につけるようにして下さい（次項参照、研修手帳に記録）。
 - 「経験すべき症候」に関する学習：日本小児科学会が定めた経験すべき33症候のうち8割以上（27症候以上）を経験するようにして下さい（次項参照、研修手帳に記録）。
 - 「経験すべき疾患」に関する学習：日本小児科学会が定めた経験すべき109疾患のうち8割以上（88症候以上）を経験するようにして下さい（研修手帳参照、記録）。
 - 「習得すべき診療技能と手技」に関する学習：日本小児科学会が定めた経験すべき54技能のうち、8割以上（44技能以上）を経験するようにして下さい（研修手帳に記録）。

<順天堂大学医学附属病院群小児科専門研修プログラムの年間スケジュール>

月	1 年 次	2 年 次	3 年 次	修 了 者	
4	○				研修開始ガイダンス（研修医および指導医に各種資料を配布）
		○	○		研修手帳を研修管理委員会に提出し、チェックを受ける
				○	研修手帳・症例レポート等を研修管理委員会に提出し判定を受ける
					<研修管理委員会> ・研修修了予定者の修了判定を行う ・2年次、3年次専攻医の研修の進捗状況の把握 ・次年度の研修プログラム、採用計画などの策定 <日本小児科学会学術集会>
5				○	専門医認定審査書類を準備する
	○	○	○	○	<研修プログラム合同勉強会・歓迎会・修了式>
6				○	専門医認定審査書類を専門医機構へ提出
					<日本小児科学会地方会>
8	○	○	○		<研修プログラム合同勉強会>
					<小児科専門医取得のためのインテンシブコース>
9				○	小児科専門医試験
	○	○	○		臨床能力評価（Mini-CEX）を1回受ける
	○	○	○		研修手帳の記載、指導医とのふりかえり
					専門医更新、指導医認定・更新書類の提出
10					<研修管理委員会> ・研修の進捗状況の確認 ・次年度採用予定者の書類審査、面接、筆記試験 ・次年度採用者の決定
12	○	○	○		<研修プログラム合同勉強会・納会>
1	○	○	○		<日本小児科学会地方会>
3	○	○	○		臨床能力評価（Mini-CEX）を1回受ける
	○	○	○		360度評価を1回受ける
	○	○	○		研修手帳の記載、指導医とのふりかえり、研修プログラム評価
					専門医更新、指導医認定・更新書類の提出

<当研修プログラムの週間スケジュール（順天堂大学医学部附属順天堂医院）>

グレー部分は特に教育的な行事です。詳細については3-2項を参照してください。

	月	火	水	木	金	土・日
	受持患者情報の把握					
8:00-9:00	Cancer board (木曜日隔週) 朝カンファレンス（患者申し送り） 病棟グループ回診					週末日直 (月2回)
9:00-12:00	病棟	一般外来 学生・初期研修 医の指導	病棟	一般外来	病棟	
12:00-13:00						
13:00-17:00	病棟	病棟	新入院患者 症例検討会	病棟 学生・初期研修 医の指導	症例検討会	東京都地方会 参加 (第2土曜)
			総回診			
17:00-17:30	患者申し送り、病棟グループ回診					
18:00-19:30		出生前カン ファレンス (毎週) 周産期カン ファレンス (月1回) 小児脳腫瘍 カンファ (毎週)	抄読会 研究報告会 地方会予演 退院患者症 例検討会	お茶の水 木曜会 (隔月第2木 曜) 小児循環器 カンファ(毎 週)		
当直（週1回）						



臨床現場を離れた学習 以下の学習機会を利用して、到達目標達成の助けとして下さい。

- (1) 日本小児科学会学術集会、分科会主催の学会、地方会、研究会、セミナー、講習会等への参加
- (2) 小児科学会主催の「小児科専門医取得のためのインテンシブコース」(1泊2日)：到達目標に記載された24領域に関するポイントを3年間で網羅して学習できるセミナー
- (3) 学会等での症例発表
- (4) 日本小児科学会オンラインセミナー：医療安全、感染対策、医療倫理、医療者教育など
- (5) 日本小児科学会雑誌等の定期購読および症例報告等の投稿
- (6) 論文執筆：専門医取得のためには、小児科に関する論文を査読制度のある雑誌に1つ報告しなければなりません。論文執筆には1年以上の準備を要しますので、指導医の助言を受けながら、早めに論文テーマを決定し、論文執筆の準備を始めて下さい。

2) **自己学習** 到達目標と研修手帳に記載されている小児疾患、病態、手技などの項目を自己評価しながら、不足した分野・疾患については自己学習を進めて下さい。

3) **大学院進学** 専門研修期間中の小児科学の大学院に進学は可能です。専門研修に支障が出ないように、プログラム・研修施設について事前相談します。小児科臨床に従事しながら臨床研究を進めるのであればその期間は専門研修として扱われます。

希望があれば大学院に入学し、学位取得を目指すとともに、リサーチマインドを養うことが可能です。そのような専攻医に対する指導・サポート体制が大変充実しています。大学院進学・学位取得は順天堂大学医学部附属病院群で研修を行う大きな利点と言えます。

4) **Subspecialty 研修** 10項を参照してください。



3. 専攻医の到達目標

3-1. 習得すべき知識・技能・研修・態度など

- 1) 「小児科専門医の役割」に関する到達目標 日本小児科学会が定めた小児科専門医としての役割を3年間で身につけるようにして下さい（研修手帳に記録して下さい）。

これらは3-4項で述べるコア・コンピテンシーと同義です。

役割		1 年 目	2 年 目	修 了 時
子どもの 総合診療 医	子どもの総合診療 ●子どもの身体、心理、発育に関し、時間的・空間的に全体像を把握できる。 ●子どもの疾病を生物学的、心理社会的背景を含めて診察できる。 ●EBMとNarrative-based Medicineを考慮した診療ができる。			
	成育医療 ●小児期だけにとどまらず、思春期・成人期も見据えた医療を実践できる。 ●次世代まで見据えた医療を実践できる。			
	小児救急医療 ●小児救急患者の重症度・緊急度を判断し、適切な対応ができる ●小児救急の現場における保護者の不安に配慮ができる。			
	地域医療と社会資源の活用 ●地域の一次から二次までの小児医療を担う。 ●小児医療の法律・制度・社会資源に精通し、適切な地域医療を提供できる。 ●小児保健の地域計画に参加し、小児科に関わる専門職育成に関与できる。			
	患者・家族との信頼関係 ●多様な考えや背景を持つ小児患者と家族に対して信頼関係構築できる。 ●家族全体の心理社会的因子に配慮し、支援できる。			
育児・健 康支援者	プライマリ・ケアと育児支援 ●Common diseasesなど、日常よくある子どもの健康問題に対応できる。 ●家族の不安を把握し、適切な育児支援ができる。			
	健康支援と予防医療 ●乳幼児・学童・思春期を通して健康支援・予防医療を実践できる。			
子どもの 代弁者	アドヴォカシー（advocacy） ●子どもに関する社会的な問題を認識できる。 ●子どもや家族の代弁者として問題解決にあたることができる。			
学識・ 研究者	高次医療と病態研究 ●最新の医学情報を常に収集し、現状の医療を検証できる。 ●高次医療を経験し、病態・診断・治療法の研究に積極的に参画する。			
	国際的視野 ●国際的な視野を持って小児医療に関わることができる。 ●国際的な情報発信・国際貢献に積極的に関わる。			

医療のプロフェッショナル	医の倫理 ●子どもを一つの人格として捉え、年齢・発達段階に合わせた説明・告知と同意を得ることができる。 ●患者のプライバシーに配慮し、小児科医としての社会的・職業的責任と医の倫理に沿って職務を全うできる。			
	省察と研鑽 ●他者からの評価を謙虚に受け止め、生涯自己省察と自己研鑽に努める。			
	教育への貢献 ●小児医療に関わるロールモデルとなり、後進の教育に貢献できる。 ●社会に対して小児医療に関する啓発的・教育的取り組みができる。			
	協働医療 ●小児医療にかかわる多くの専門職と協力してチーム医療を実践できる。			
	医療安全 ●小児医療における安全管理・感染管理の適切なマネジメントができる。			
	医療経済 ●医療経済・保険制度・社会資源を考慮しつつ、適切な医療を実践できる。			

2) 「経験すべき症候」に関する到達目標 日本小児科学会が定めた経験すべき 33 症候のうち 8 割以上 (27 症候以上) を経験するようにして下さい (研修手帳に記録して下さい)。

症候	1 年 目	2 年 目	修 了 時
体温の異常			
発熱, 不明熱, 低体温			
疼痛			
頭痛			
胸痛			
腹痛 (急性, 反復性)			
背・腰痛, 四肢痛, 関節痛			
全身的症候			
泣き止まない, 睡眠の異常			
発熱しやすい, かぜをひきやすい			
だるい, 疲れやすい			
めまい, たちくらみ, 顔色不良, 気持ちが悪い			
ぐったりしている, 脱水			
食欲がない, 食が細い			
浮腫, 黄疸			
成長の異常			
やせ, 体重増加不良			
肥満, 低身長, 性成熟異常			
外表奇形・形態異常			
顔貌の異常, 唇・口腔の発生異常, 鼠径ヘルニア, 臍ヘルニア, 股関節の異常			
皮膚, 爪の異常			
発疹, 湿疹, 皮膚のびらん, 蕁麻疹, 浮腫, 母斑, 膿瘍, 皮下の腫瘍, 乳腺の異常, 爪の異常, 発毛の異常, 紫斑			
頭頸部の異常			
大頭, 小頭, 大泉門の異常			
頸部の腫脹, 耳介周囲の腫脹, リンパ節腫大, 耳痛, 結膜充血			

消化器症状			
嘔吐（吐血），下痢，下血，血便，便秘，口内のただれ，裂肛			
腹部膨満，肝腫大，腹部腫瘤			
呼吸器症状			
咳，嘔声，喀痰，喘鳴，呼吸困難，陥没呼吸，呼吸不整，多呼吸			
鼻閉，鼻汁，咽頭痛，扁桃肥大，いびき			
循環器症状			
心雑音，脈拍の異常，チアノーゼ，血圧の異常			
血液の異常			
貧血，鼻出血，出血傾向，脾腫			
泌尿生殖器の異常			
排尿痛，頻尿，乏尿，失禁，多飲，多尿，血尿，陰嚢腫大，外性器の異常			
神経・筋症状			
けいれん，意識障害			
歩行異常，不随意運動，麻痺，筋力が弱い，体が柔らかい，floppy infant			
発達の問題			
発達の遅れ，落ち着きがない，言葉が遅い，構音障害（吃音），学習困難			
行動の問題			
夜尿，遺糞			
泣き入りひきつけ，夜泣き，夜驚，指しゃぶり，自慰，チック			
うつ，不登校，虐待，家庭の危機			
事故，傷害			
溺水，管腔異物，誤飲，誤嚥，熱傷，虫刺			
臨死，死			
臨死、死			

- 3) 「経験すべき疾患」に関する到達目標 日本小児科学会が定めた経験すべき 109 疾患のうち、8 割以上（88 疾患以上）を経験するようにして下さい（研修手帳に記録して下さい）。

新生児疾患，先天異常	感染症	循環器疾患	精神・行動・心身医学
低出生体重児	麻疹，風疹	先天性心疾患	心身症，心身医学的問題
新生児黄疸	単純ヘルペス感染症	川崎病の冠動脈障害	夜尿
呼吸窮迫症候群	水痘・带状疱疹	房室ブロック	心因性頻尿
新生児仮死	伝染性単核球症	頻拍発作	発達遅滞，言語発達遅滞
新生児の感染症	突発性発疹	血液，腫瘍	自閉症スペクトラム
マス・スクリーニング	伝染性紅斑	鉄欠乏性貧血	AD/HD
先天異常，染色体異常症	手足口病，ヘルパンギーナ	血小板減少	救急
先天代謝，代謝性疾患	インフルエンザ	白血病，リンパ腫	けいれん発作
先天代謝異常症	アデノウイルス感染症	小児がん	喘息発作
代謝性疾患	溶連菌感染症	腎・泌尿器	ショック
内分泌	感染性胃腸炎	急性糸球体腎炎	急性心不全
低身長，成長障害	血便を呈する細菌性腸炎	ネフローゼ症候群	脱水症
単純性肥満，症候性肥満	尿路感染症	慢性腎炎	急性腹症
性早熟症，思春期早発症	皮膚感染症	尿細管機能異常症	急性腎不全
糖尿病	マイコプラズマ感染症	尿路奇形	虐待，ネグレクト
生体防御，免疫	クラミジア感染症	生殖器	乳児突然死症候群
免疫不全症	百日咳	亀頭包皮炎	来院時心肺停止
免疫異常症	RSウイルス感染症	外陰腺炎	溺水，外傷，熱傷
膠原病，リウマチ性疾患	肺炎	陰嚢水腫，精索水腫	異物誤飲・誤嚥，中毒
若年性特発性関節炎	急性中耳炎	停留精巣	思春期
SLE	髄膜炎（化膿性，無菌性）	包茎	過敏性腸症候群
川崎病	敗血症，菌血症	神経・筋疾患	起立性調節障害

血管性紫斑病	真菌感染症	熱性けいれん	性感染, 性感染症
多型滲出性紅斑症候群	呼吸器	てんかん	月経の異常
アレルギー疾患	クローン症候群	顔面神経麻痺	関連領域
気管支喘息	細気管支炎	脳炎, 脳症	虫垂炎
アレルギー性鼻炎・結膜炎	気道異物	脳性麻痺	鼠径ヘルニア
アトピー性皮膚炎	消化器	高次脳機能障害	肘内障
蕁麻疹, 血管性浮腫	腸重積	筋ジストロフィー	先天性股関節脱臼
食物アレルギー	反復性腹痛		母斑, 血管腫
アナフィラキシー	肝機能障害		扁桃, アデノイド肥大
			鼻出血

- 4) 「習得すべき診療技能と手技」に関する到達目標 日本小児科学会が定めた経験すべき 54 技能のうち、8 割以上（44 技能以上）を経験するようにして下さい（研修手帳に記録して下さい）。

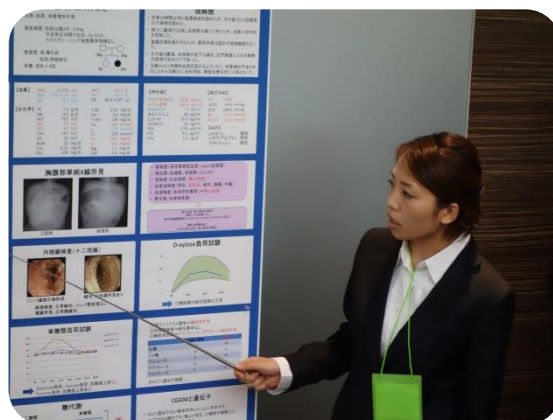
身体計測	採尿	けいれん重積の処置と治療	
皮脂厚測定	導尿	末梢血液検査	
バイタルサイン	腰椎穿刺	尿一般検査、生化学検査、蓄尿	
小奇形・形態異常の評価	骨髄穿刺	便一般検査	
前弯試験	浣腸	髄液一般検査	
透光試験（陰嚢, 脳室）	高圧浣腸（腸重積整復術）	細菌培養検査、塗抹染色	
眼底検査	エアゾール吸入	血液ガス分析	
鼓膜検査	酸素吸入	血糖・ビリルビン簡易測定	
鼻腔検査	臍肉芽の処置	心電図検査（手技）	
注射法	静脈内注射	鼠径ヘルニアの還納	X線単純撮影
	筋肉内注射	小外科, 膿瘍の外科処置	消化管造影
	皮下注射	肘内障の整復	静脈性尿路腎盂造影
	皮内注射	輸血	CT検査
採血法	毛細管採血	胃洗浄	腹部超音波検査
	静脈血採血	経管栄養法	排泄性膀胱尿道造影
	動脈血採血	簡易静脈圧測定	腹部超音波検査
静脈路確保	新生児	光線療法	
	乳児	心肺蘇生	
	幼児	消毒・滅菌法	

3-2. 各種カンファレンスなどによる知識・技能の習得

当プログラムでは様々な知識・技能の習得機会（教育的行事）を日本小児科学会の到達目標に準拠して設けています。

- 1) **朝カンファレンス・病棟グループ朝回診**（毎日） 毎朝、患者申し送りを行い、病棟グループ回診を行って指導医からフィードバックを受け、指摘された課題について学習を進める。
- 2) **患者申し送り・病棟グループ夕回診**（毎日） 毎日夕方、患者申し送りを行い、病棟グループ回診を行って翌日以降の対応に関する確認を行うとともに、指導医からフィードバックを受け、指摘された課題について学習を進める。
- 3) **総回診**（毎週1回） 受持患者について教授をはじめとした指導医陣に報告してフィードバックを受ける。受持以外の症例についても見識を深める。
- 4) **新入院患者症例検討会**（毎週1回） 1週間の新入院患者について専攻医がパワーポイントを用いて症例の呈示を行い、診断や治療についての質疑になかで、指導医から診断手順や治療方針を含めて様々な指導を受ける。また症例呈示の際には、その症例に関する文献の紹介、文献的考察を加え報告する。順天堂医院には海外からの見学実習医学生や研修医が度々来るため、プレゼンテーションを英語で行うこともしばしばあり、英語能力の向上に大きく役立っています。
- 5) **入院患者症例検討会**（毎週1回） 新入院患者症例検討会で検討出来なかった入院患者について専攻医が症例の報告をし、診断・治療に対する指導医からのフィードバック、質疑などを行う。
- 6) **出生前カンファレンス**（毎週1回） その週に出生予定の症例に関する症例検討会を、小児科・産科・必要に応じて小児外科を交えた合同で行う。
- 7) **周産期カンファレンス**（毎月1回） 周産期症例に関する症例検討会を、小児科・産科・小児外科合同および看護師を交えて行う。超低出生体重児、手術症例、先天異常、死亡例などの症例検討を行い、臨床倫理など小児科専門医のプロフェッショナリズムについても学ぶ。
- 8) **小児脳腫瘍カンファレンス**（毎週1回） 病棟血液腫瘍グループ研修中は、脳神経外科との合同症例検討会を行う。入院・外来患者の治療方針について検討し、小児脳腫瘍の最新の治療法と対応法、画像読影を学ぶ。
- 9) **小児循環器カンファレンス**（毎週1回） 病棟循環器グループ研修中は、心臓カテーテル検査後に心臓血管外科との合同症例検討会を行う。このカンファレンスを通して、心臓血管外科領域の最新の治療法、対応法を学ぶ。

- 1 0) **Cancer Board** (木曜日隔週) 病棟血液腫瘍グループ研修中は、悪性腫瘍疾患の院内合同症例検討会に出席する。病理医・放射線診断医・放射線治療医・外科医・緩和ケア医・心理士などの他職種で症例について検討を行い、最新の診断法・治療法を学ぶと同時にトータルケアについて学ぶ。
- 1 1) **退院患者症例検討会** (毎月1回) 退院患者症例のうち、診断・治療困難例、臨床研究症例などについて専攻医が報告し、指導医からのフィードバック、質疑、総合討論などを行う。また死亡・剖検例、難病・稀少症例についての病理診断を含めた症例検討を行う。
- 1 2) **お茶の水木曜会** (隔月第2木曜) 臨床トピックスについて、学外から招聘した専門家のレクチャーを聴講し、専門的医療知見の最新を学ぶ。
- 1 3) **英文抄読会・研究報告会** (毎週1回) 抄読会では毎回3~4名の専攻医が、プランナーとなった指導医が指定する英文論文を読んでその概要をプレゼンテーションし、総合討論・意見交換を行う。
- 研究報告会では講座で行われている研究、大学院生の研究について討論を行い、学識を深め、国際性や医師の社会的責任について学ぶ。
- これらの会は当プログラムに参加するすべての専攻医が一同に会し、多施設にいる専攻医と指導医の交流を図る合同勉強会の場となる。
- 1 4) **東京都地方会・地方会予演** (毎月1回) 東京都地方会には、病棟4グループ分担で毎月症例報告を行っている。この地方会での発表は専攻医が指導医の指導のもと担当する。地方会予演では、専攻医が本番同様にプレゼンテーションし、質疑応答・意見交換を行うとともに、発表内容をブラッシュアップする。専攻医はこれらを通して、学会発表のいろはを学ぶ。
- 1 5) **ふりかえり** 毎月1回、専攻医と指導医が1対1またはグループで集まり、1ヶ月間の研修をふりかえる。研修上の問題点や悩み、研修(就業)環境、研修の進め方、キャリア形成などについてインフォーマルな雰囲気話し合いを行う。
- 1 6) **学生・初期研修医に対する指導** 病棟や外来で医学生・初期研修医を指導する。後輩を指導することは、自分の知識を整理・確認することにつながることから、当プログラムでは、専攻医の重要な取組みと位置づけている。



3-3. 学問的姿勢

当プログラムでは、3年間の研修を通じて科学的思考、生涯学習の姿勢、研究への関心などの学問的姿勢も学んでいきます。

- 1) 受持患者などについて、常に最新の医学情報を吸収し、診断・治療に反映できる。
- 2) 高次医療を経験し、病態・診断・治療法の臨床研究に協力する。
- 3) 国際的な視野を持って小児医療を行い、国際的な情報発信・貢献に協力する。
- 4) 指導医などからの評価を謙虚に受け止め、ふりかえりと生涯学習ができるようにする。

また、小児科専門医資格を受験するためには、査読制度のある雑誌に小児科に関連する筆頭論文1編を発表していることが求められます。論文執筆には1年以上の準備を要しますので、研修2年目のうちに指導医の助言を受けながら、論文テーマを決定し、投稿の準備を始めることが望まれます。

3-4. 医師に必要なコアコンピテンシー、倫理性、社会性

コアコンピテンシーとは医師としての中核的な能力あるいは姿勢のことで、第3項の「小児科専門医の役割」に関する到達目標が、これに該当します。特に「医療のプロフェッショナル」は小児科専門医としての倫理性や社会性に焦点を当てています。

- 1) 子どもを一個の人格として捉え、年齢・発達段階に合わせた説明・告知と同意を得ることができる。
- 2) 患者のプライバシーに配慮し、小児科医としての社会的・職業的責任と医の倫理に沿って職務を全うできる。
- 3) 小児医療に関わるロールモデルとなり、後進の教育に貢献できる。
- 4) 社会に対して小児医療に関する啓発的・教育的取り組みができる。
- 5) 小児医療に関わる多くの専門職と協力してチーム医療を実践できる。
- 6) 小児医療の現場における安全管理・感染管理に対して適切なマネジメントができる。
- 7) 医療経済・社会保険制度・社会的資源を考慮しつつ、適切な医療を実践できる。

4. 研修施設群による研修プログラムと地域医療についての考え方

4-1 年次毎の研修計画

日本小児科学会では研修年次毎の達成度（マイルストーン）を定めています（下表）。小児科専門研修においては広範な領域をローテーションしながら研修するため、研修途中においてはマイルストーンの達成度は専攻医ごとに異なっていて構いませんが、研修修了時点で一定レベルに達していることが望めます。「小児科専門医の役割（16項目）」の各項目に関するマイルストーンについては研修マニュアルを参照してください。研修3年次はチーフレジデントとして専攻医全体のとりまとめ、後輩の指導、研修プログラムへの積極的関与など、責任者としての役割が期待されます。

1年次	健康な子どもと家族、common disease、小児保健・医療制度の理解 基本的診療技能（面接、診察、手技）、健康診断法の修得 小児科総合医、育児・健康支援者としての役割を自覚する
2年次	病児と家族、重症疾患・救急疾患の理解 診療技能に習熟し、重症疾患・救急疾患に的確に対応できる 小児科総合医としての実践力を高める、後輩の指導
3年次 (チーフレジデント)	高度先進医療、希少難病、障がい児に関する理解 高度先進医療、希少難病、障がい児に関する技能の修得 子どもの代弁者、学識者、プロフェッショナルとしての実践 専攻医とりまとめ、後輩指導、研修プログラムへの積極的関与

4-2 研修施設群と研修モデル

小児科専門研修プログラムは3年間（36ヶ月間）と定められています。本プログラムにおける研修病院群と、年次毎の研修ローテーションは21および22ページの表のとおりです。特徴として、

- 1) 順天堂医院、順天堂浦安病院、順天堂練馬病院、順天堂静岡病院の4附属病院からなる大学附属病院群、豊島病院、江東病院、東部地域病院、多摩南部地域病院の4病院からなる都内一般病院群、越谷市立病院、済生会川口総合病院、神栖済生会病院、獨協医科大学埼玉医療センターの4病院からなる地域一般病院群、ならびに専門研修が行える専門研修病院群の4つの病院群を専攻医の希望に応じて選択できる。
- 2) 全ての大学附属病院群、都内一般病院群、地域一般病院の医員構成は、部長・医長から専攻医までほぼ全員が順天堂大学小児科学講座に属する者であり、統一された教育体制のなかで研修指導を受けられる。
- 3) 専門研修として、東邦大学医療センター大森病院（新生児）、国立成育医療研究センター（消化器、児童精神）、埼玉県立小児医療センター（腎臓）、茨城県立こども病院（超音波）、東京かつしか赤十字母子医療センター（新生児）、昭和伊南総合病院（内視鏡）、神奈川県立こども医療センター、亀田総合病院、愛知医科大学病院での研修が可能である。

- 4) 初めに順天堂医院と順天堂浦安病院または順天堂練馬病院をローテートすることにより、まず小児科医として必要な基本知識・態度・技能を学び、その後、新生児医療、地域医療、一般小児医療を学び、希望に応じて専門研修も行えるようローテーションを組んでいる。
- 5) 東京都地域枠出身の専攻医は、全て都が指定している研修施設において36ヶ月間の研修が可能である（例：23ページの専攻医リ(都外研修3～6ヶ月あり)、又）。
- 6) 大学院生は、通常36ヶ月間の研修終了後から臨床を離れて研究生活に入ることが多く、大学院入学は専門医の取得には影響を及ぼさない。



<本プログラム研修施設（1 基幹施設、14 連携施設）>

	施設名	医療圏	小児科 年間入院数	小児科 年間外来数	小児科 専門医数	うち 指導医数
	研修基幹施設 順天堂大学医学部附属 順天堂医院	二次医療圏 東京都区中央部	18,493	28,534	50	24
1	順天堂大学医学部附属 浦安病院	二次医療圏 東葛南部	14,248	23,423	11	7
2	順天堂大学医学部附属 練馬病院	二次医療圏 東京都区西北部	5,515	22,550	14	7
3	順天堂大学医学部附属 静岡病院	二次医療圏 駿東田方	15,402	17,562	5	1
4	東邦大学医療センター 大森病院	二次医療圏 東京都区南部	350	1,200	8	5
5	獨協医科大学 埼玉医療センター	二次医療圏 埼玉県東部	9,366	25,373	14	12
6	埼玉県立 小児医療センター	二次医療圏 埼玉医療圏	7,375	12,128	47	16
7	埼玉県越谷市立病院	二次医療圏 埼玉県東部南地区 第二次救急	796	17,991	3	2
8	埼玉県済生会 川口総合病院	二次医療圏 埼玉県南部	1,324	15,539	6	5
9	東京都保健医療公社 豊島病院	二次医療圏 東京都 区西北部保健	1,058	12,018	7	1
10	東京都保健医療公社 東部地域病院	二次医療圏 東京都 区東北部保健	734	11,429	3	2
11	東京都医療保健公社 多摩南部地域病院	二次医療圏 東京都南多摩	294	5,494	1	1
12	江東病院	二次医療圏 東京都区東部	584	7943	3	0
13	神栖済生会病院	二次医療圏 鹿行保健 医療圏	479	31,139	4	1

<本プログラム研修ローテーション>※※

重点連携	専攻医 イ	順天堂医院	順天堂浦安病院	順天堂静岡病院	越谷市立病院
連携	専攻医 ロ	順天堂医院	順天堂浦安病院	順天堂静岡病院	江東病院
連携	専攻医 ハ	順天堂医院	順天堂浦安病院	順天堂静岡病院	東部地域病院
連携	専攻医 ニ	順天堂浦安病院	順天堂医院	豊島病院	順天堂静岡病院
重点連携	専攻医 ホ	順天堂浦安病院	順天堂医院	越谷市立病院	順天堂静岡病院
連携	専攻医 ヘ	順天堂浦安病院	順天堂医院	神栖済生会病院	豊島病院
連携	専攻医 ト	順天堂練馬病院	順天堂医院	越谷市立病院	順天堂浦安病院
連携	専攻医 チ	順天堂練馬病院	順天堂医院	川口総合病院	順天堂静岡病院
	専攻医 リ ※	順天堂練馬病院	順天堂医院	東部地域病院	順天堂静岡病院(4ヶ月) 東邦大学大森病院(6ヶ月)
	専攻医 ヌ ※	順天堂練馬病院	順天堂医院	多摩南部地域病院	東京かつしか赤十字 母子医療センター
	専攻医 ル	順天堂医院	順天堂静岡病院	東邦大学大森病院	順天堂浦安病院
	専攻医 ヲ	順天堂医院	順天堂静岡病院	順天堂浦安病院	多摩南部地域病院
	専攻医 ア	順天堂医院	順天堂練馬病院	順天堂静岡病院	川口総合病院
	専攻医 カ	順天堂医院	順天堂練馬病院	順天堂浦安病院	神栖済生会病院
	専攻医 コ	順天堂医院	順天堂静岡病院	江東病院	獨協医科大学 埼玉医療センター
	専攻医 タ	順天堂浦安病院	順天堂医院	埼玉小児医療センター	順天堂練馬病院
	研修期間	8ヶ月	8ヶ月	10ヶ月	10ヶ月
	施設での 研修内容	小児医としてヒトの成長と発達を見守り援助するという心構えを確立する。小児科学のすべての領域をくまなく経験し、小児科医として必須の知識と診療技能を習得する。	大学附属病院研修中に、一般的な疾患のほか、先天性疾患、稀少疾患、新生児医療を担当し、専門的かつ最新の医療を習得すし、プレゼンテーション能力の向上も図る。	小児科のあらゆる領域の診療に従事し研修するとともに後輩の専攻医の相談にものり、的確な指導を行う修練もする。併せて地域の救急医療に参加して研修する。	地方都市の基幹病院小児科として、あらゆる急性疾患への対応や慢性疾患の診断・治療に従事する。高次医療が必要な場合は、後方病院への搬送の判断を遅滞なく行う。

※ 東京都地域枠採用の研修コース（専攻医リ(都外研修3~6ヶ月あり、ヌ)が用意されています。

※※ 希望により研修先が選べます。

<本プログラムの関連施設（9 関連施設）>

その他の関連施設名	小児科 年間入院数	小児科 年間外来数	小児科 専門医数	うち 指導医数
1) 国立成育医療研究センター 消化器科	2,100	2,273	2	2
2) 東京都立小児総合医療センター	134,948	135,173	66	66
3) 茨城県立こども病院	2,566	39,343	21	18
4) 湘南藤沢徳洲会病院	275	1,665	4	4
5) 神奈川県立こども医療センター	102,190	169,861	54	7
6) 東京かつしか赤十字母子医療センター	11,436	22,021	4	2
7) 愛知医科大学病院	1,349	23,054	13	13
8) 昭和伊南総合病院	0	0	0	0
9) 亀田総合病院	690	25,183	10	6

<本プログラムの領域別の研修目標>

研修領域	研修目標	基幹研修 施設	研修連携 施設	その他の 関連施設
診療技能 全般	<p>小児の患者に適切に対応し、特に生命にかかわる疾患や治療可能な疾患を見逃さないために小児にみられる各症候を理解し情報収集と身体診察を通じて病態を推測するとともに、疾患の出現頻度と重症度に応じた的確に診断し、患者・家族の心理過程や苦痛、生活への影響に配慮する能力を身につける。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 平易な言葉で患者や家族とコミュニケーションをとる。 2. 症候をめぐる患者と家族の解釈モデルと期待を把握し、適切に対応する。 3. 目と耳と手とを駆使し、診察用具を適切に使用して、基本的な診察を行う。 4. 対診・紹介を通して、医療者間の人間関係を確立する。 5. 地域の医療資源を活用する。 6. 診療録に利用価値の高い診療情報を記載する。 7. 対症療法を適切に実施する。 8. 臨床検査の基本を理解し、適切に選択・実施する。 	順天堂大学 医学部附属 順天堂医院	順天堂大学 浦安病院・順 天堂大学練 馬病院・順天 堂大学静岡 病院・獨協大 学埼玉医療 センター・東 邦大学大森 病院・埼玉県 立小児医療 センター・越 谷市立病 院・川口総合 病院・豊島病 院・東部地域 病院・多摩南 部地域病 院・江東病 院・神栖済生 会病院	成育医療 研究セン ター・都 立小児医 療センタ ー・茨城 こども病 院・湘南 藤沢徳洲 会病院・ 愛知医科 大学・亀 田総合病 院
小児保健	子どもが家庭や地域社会の一員として心身の健康を維持・向上させるために、成長発達に影響を与える文化・経済・社会的要因の解明に努め、不都合な環境条件から子どもを保護し、疾病・傷害・中毒の発生を未然に防ぎ、医療・社会福祉資源を活用しつつ子どもや家族を支援する能力を身につける。	同上	同上	同上
成長・ 発達	子どもの成長・発達に異常をきたす疾患を適切に診断・治療するために、身体・各臓器の成長、精神運動発達、成長と発達に影響する因子を理解し、成長と発達を正しく評価し、患者と家族の心理社会的背景に配慮して指導する能力	同上	同上	同上

	を身につける。			
栄養	小児の栄養改善のために、栄養所要量や栄養生理を熟知し、母乳育児や食育を推進し、家庭や地域、環境に配慮し、適切な栄養指導を行う能力を身につける。 未熟児や乳幼児における栄養障害の評価、原因診断、治療の実際を身につける。 また肥満児に対する食事、運動、生活習慣、心理的サポートおよび合併症対策も修得する。	同上	同上	同上
水・電解質	小児の体液生理、電解質、酸塩基平衡の特殊性を理解し、脱水や水・電解質異常の的確な診断と治療を行う能力を身につける。入院患者を担当しながら、全身管理の一環として水・電解質管理を学ぶ。	同上	同上	同上
新生児	新生児の生理、新生児期特有の疾患と病態を理解し、母子早期接触や母乳栄養を推進し、母子の愛着形成を支援するとともに、母体情報、妊娠・分娩経過、系統的な身体診察、注意深い観察に基づいて病態を推測し、侵襲度に配慮して検査や治療を行う能力を修得する。	同上	同上	東京かつしか赤十字母子医療センター
先天異常	主な先天異常、染色体異常、奇形症候群、遺伝子異常のスクリーニングや診断を一般診療の中で行うために、それら疾患についての知識を有し、スクリーニング、遺伝医学的診断法、遺伝カウンセリングの基本的知識と技能を身につける。	同上	同上	
先天代謝異常・代謝性疾患	主な先天代謝異常症の診断と治療を行うために、先天代謝異常症の概念と基本的な分類を理解し、新生児マス・スクリーニング陽性者には適切に対応し、一般診療の中で種々の症状・所見から先天代謝異常症を疑い、緊急を要する病態には迅速に対応し、適切なタイミングで専門医へ紹介する技能を身につける。	同上	同上	
内分泌	内分泌疾患に対して適切な初期対応と長期管理を行うために、各種ホルモンの一般的概念、内分泌疾患の病態生理を理解し、スクリーニング検査や鑑別診断、緊急度に応じた治療を行うことのできる基本的能力を身につける。	同上	同上	神奈川県立こども医療センター
生体防御免疫	一般診療の中で免疫異常症を疑い、適切な診断と治療ができるために、各年齢における免疫能の特徴を理解し、免疫不全状態における感染症の診断、日常生活・学校生活へのアドバイスと配慮ができ、専門医に紹介できる能力を身につける。	同上	同上	
膠原病リウマチ性疾患	主な膠原病・リウマチ性疾患について小児の診断基準に基づいた診断、標準的治療とその効果判定を行うために、系統的な身体診察、検査の選択、結果の解釈を身につけるとともに、小児リウマチの専門家との連携、整形外科・皮膚科・眼科・リハビリテーション科など多専門職とのチーム医療を行う能力を身につける。	同上	同上	
アレルギー	アレルギー反応の一連の仕組み、非即時型アレルギーの病態、IgE抗体を介した即時型アレルギーについて、アトピー素因を含めた病歴聴取、症状の推移の重要性を理解し、十分な臨床経験を積んで、検査・診断・治療法を修得する。	同上	同上	

感染症	主な小児期の感染症について、疫学、病原体の特徴、感染機構、病態、診断・治療法、予防法を理解し、病原体の同定、感染経路の追究、感染症サーベイランスを行うとともに、薬剤耐性菌の発生や院内感染予防を認識し、患者・家族および地域に対して適切な指導ができる能力を修得する。	同上	同上	
呼吸器	小児の呼吸器疾患を適切に診断・治療するため、成長・発達にともなう呼吸器官の解剖学的特性や生理的变化、小児の身体所見の特徴を理解し、それらに基づいた診療を行い、急性呼吸不全患者には迅速な初期対応を、慢性呼吸不全患者には心理社会的側面にも配慮した対応能力を身につける。	同上	同上	
消化器	小児の主な消化器疾患の病態と症候を理解し、病歴聴取・診察・検査により適切な診断・治療・予防を行い、必要に応じて外科等の専門家と連携し、緊急を要する消化器疾患に迅速に対応する能力を身につける。	同上	同上	茨城こども病院・成育医療研究センター・昭和伊南総合病院
循環器	先天性心疾患や心筋疾患、川崎病性心合併症、不整脈など主な小児の心血管系異常について、適切な病歴聴取と身体診察を行い、基本的な心電図・超音波検査結果を評価し、初期診断と重症度を把握し、必要に応じて専門家と連携し、救急疾患については迅速な治療対応を行う能力を身につける。	同上	同上	
血液	造血系の発生・発達、止血機構、血球と凝固因子・線溶系異常の発生機序、病態を理解し、小児の血液疾患の鑑別診断を行い、頻度の高い疾患については正しい治療を行う能力を修得する。	同上	同上	
腫瘍	白血病や悪性リンパ腫、固形腫瘍、脳腫瘍など小児の悪性腫瘍の一般的特性、頻度の高い良性腫瘍を知り、初期診断法と治療の原則を理解するとともに、集学的治療の重要性を認識して、腫瘍性疾患の診断と治療を行う能力を修得する。また同種移植や自家末梢血幹細胞などの移植治療の知識も修得する。	同上	同上	
腎・泌尿器	腎炎・ネフローゼ症候群をはじめとする小児腎臓病に加え、先天性水腎症・膀胱尿管逆流症などの泌尿器科的疾患を含め、頻度の高い腎・泌尿器疾患の診断ができ、適切な治療を行い、慢性疾患においては成長発達に配慮し、緊急を要する病態や難治性疾患には指導医や専門家の監督下で適切に対応する能力を修得する。	同上	同上	
生殖器	専門家チーム（小児内分泌科医、小児外科医/泌尿器科医、形成外科医、小児精神科医/心理士、婦人科医、臨床遺伝医、新生児科医などから構成されるチーム）と連携し、心理的側面に配慮しつつ治療方針を決定する能力を修得する。	同上	同上	
神経・筋	てんかんや急性脳症を中心とした主な小児神経・筋疾患について、病歴聴取、年齢に応じた神経学的診察、精神運動	同上	同上	愛知医科大学病院

	発達および神経学的評価、脳波、神経放射線画像などの基本的検査を実施し、診断・治療計画を立案し、また複雑・難治な病態については、指導医や専門家の指導のもと、患者・家族との良好な人間関係の構築、維持に努め、適切な診療を行う能力を修得する。			
精神・行動・心身医学	小児の訴える身体症状の背景に心身医学的問題があることを認識し、出生前からの小児の発達と母子相互作用を理解し、主な小児精神疾患、心身症、精神発達の異常、親子関係の問題に対する適切な初期診断と対応を行い、必要に応じて専門家に紹介する能力を身につける。	同上	同上	成育医療研究センター
救急	小児の救急疾患の特性を熟知し、バイタルサインを把握して年齢と重症度に応じた適切な救命・救急処置およびトリージを行い、高次医療施設に転送すべきか否かとその時期を判断する能力を修得する。	同上	同上	
思春期医学	思春期の子どものごころと体の特性を理解し、健康問題を抱える思春期の子どもと家族に対して、適切な判断・対応・治療・予防措置などの支援を行うとともに、関連する診療科・機関と連携して社会的支援を行う能力を身につける。	同上	同上	成育医療研究センター
地域総合小児医療	地域の一次・二次医療、健康増進、予防医療、育児支援などを総合的に担い、地域の各種社会資源・人的資源と連携し、地域全体の子どもの全人的・継続的に診て、小児の疾病の診療や成長発達、健康の支援者としての役割を果たす能力を修得する。	同上	同上	茨城こども病院・湘南藤沢徳洲会病院

4-3 地域医療の考え方

当プログラムは順天堂大学医学附属順天堂医院小児科を基幹施設とし、静岡県、千葉県、埼玉県の各医療圏における小児医療を支えるものであり、地域医療に十分配慮したものです。3年間の研修期間のうち約1年間は順天堂静岡病院で地域救急医療および新生児医療を、約1年間は越谷市立病院や済生会川口総合病院、獨協医科大学埼玉医療センターにおいて地域医療全般を経験するようにプログラムされています。地域医療においては、小児科専門医の到達目標分野 24「地域小児総合医療」（下記）を参照して、地域医療に関する能力を研鑽してください。また、へき地における「地域小児総合医療」を、連携施設である神栖済生会病院（茨城県）、さらに関連施設である茨城県立こども病院（茨城県）でも研修することができます。

<地域小児総合医療の具体的到達目標>

- (1) 子どもの疾病・傷害の予防，早期発見，基本的な治療ができる。
 - (ア) 子どもや養育者とのコミュニケーションを図り，信頼関係を構築できる。
 - (イ) 予防接種について，養育者に接種計画，効果，副反応を説明し，適切に実施する。副反応・事故が生じた場合には適切に対処できる。
- (2) 子どもをとりまく家族・園・学校など環境の把握ができる。
- (3) 養育者の経済的・精神的な育児困難がないかを見極め，虐待を念頭に置いた対応ができる。
- (4) 子どもや養育者からの確かな情報収集ができる。
- (5) Common Disease の診断や治療，ホームケアについて本人と養育者に分かりやすく説明できる。
- (6) 重症度や緊急度を判断し，初期対応と，適切な医療機関への紹介ができる。
- (7) 稀少疾患・専門性の高い疾患を想起し，専門医へ紹介できる。
- (8) 乳幼児健康診査・育児相談を実施できる。
 - (ア) 成長・発達障害，視・聴覚異常，行動異常，虐待等を疑うことができる。
 - (イ) 養育者の育児不安を受け止めることができる。
 - (ウ) 基本的な育児相談，栄養指導，生活指導ができる。
- (9) 地域の医療・保健・福祉・行政の専門職，スタッフとコミュニケーションをとり協働できる。
- (10) 地域の連携機関の概要を知り，医療・保健・福祉・行政の専門職と連携し，小児の育ちを支える適切な対応ができる。

5. 専門研修の評価

専門研修を有益なものとし、到達目標達成を促すために、当プログラムでは指導医が専攻医に対して様々な形成的評価（アドバイス、フィードバック）を行います。研修医自身も常に自己評価を行うことが重要です（振り返りの習慣、研修手帳の記載など）。毎年2回、各専攻医の研修の進捗状況をチェックし、3年間の研修修了時には目標達成度を総括的に評価し、研修修了認定を行います。指導医は、臨床経験10年以上の経験豊富な臨床医で、適切な教育・指導法を習得するために、日本小児科学会が主催する指導医講習会もしくはオンラインセミナーで研修を受け、日本小児科学会から指導医としての認定を受けています。

1) 指導医による形成的評価

- 日々の診療において専攻医を指導し、アドバイス・フィードバックを行う。
- 毎週の教育的行事（回診、カンファレンス等）で、研修医のプレゼンなどに対してアドバイス・フィードバックを行う。
- 毎月1回の「ふりかえり」では、専攻医と指導医が1対1またはグループで集まり、研修をふりかえり、研修上の問題点や悩み、研修の進め方、キャリア形成などについて非公式の話し合いが持たれ、指導医からアドバイスを行う。
- 毎年2回、専攻医の診療を観察し、記録・評価して研修医にフィードバックする(Mini-CEX)。
- 毎年2回、研修手帳のチェックを受ける。

2) 専攻医による自己評価

- 日々の診療・教育的行事において指導医から受けたアドバイス・フィードバックに基づき、ふりかえりを行う。
- 毎月1回の「ふりかえり」では、指導医とともに1か月間の研修をふりかえり、研修上の問題点や悩み、研修の進め方、キャリア形成などについて考える機会を持つ。
- 毎年2回、Mini-CEXによる評価を受け、その際、自己評価も行う。
- 毎年2回、研修手帳の記載を行い、自己評価とふりかえりを行う。

3) 総括的評価

- 毎年1回、年度末に研修病院での360度評価を受ける(指導医、医療スタッフなど多職種)。
- 3年間の総合的な修了判定は研修管理委員会が行います。修了認定されると小児科専門医試験の申請を行うことができます。

6. 修了判定

1) **評価項目** (1) 小児科医として必須の知識および問題解決能力、(2) 小児科専門医としての適切なコミュニケーション能力および態度について、指導医・同僚研修医・看護師等の評価に基づき、研修管理委員会で修了判定を行います。

2) **評価基準と時期**

- (1) の評価：簡易診療能力評価 Mini-CEX (mini-clinical Evaluation Exercise)を参考にします。指導医は専攻医の診療を 10 分程度観察して研修手帳に記録し、その後研修医と 5～10 分程度振り返ります。評価項目は、病歴聴取、診察、コミュニケーション（態度）、臨床判断、プロフェッショナルリズム、まとめる力・能率、総合的評価の 7 項目です。毎年 2 回（10 月頃と 3 月頃）、3 年間の専門研修期間中に合計 6 回行います。
- (2) の評価：360 度評価を参考にします。専門研修プログラム統括責任者、連携施設の専門研修担当者、指導医、小児科看護師、同時期に研修した専攻医などが、①総合診療能力、②育児支援の姿勢、③代弁する姿勢、④学識獲得の努力、⑤プロフェッショナルとしての態度について、概略的な 360 度評価を行います。
- (3) 総括判定：研修管理委員会が上記の Mini-CEX, 360 度評価を参考に、研修手帳の記載、症例サマリー、診療活動・学術活動などを総合的に評価して、修了判定します。研修修了判定がおりないと、小児科専門医試験を受験できません。
- (4) 「妊娠・出産、産前後に伴う研修期間の休止」、「疾病での休止」、「短時間雇用形態での研修」、「専門研修プログラムを移動する場合」、「その他一時的にプログラムを中断する場合」に相当する場合は、その都度諸事情および研修期間等を考慮して判定を行います。

<専門医が専門研修プログラムの修了に向けて行うべきこと>

プログラム修了認定、小児科専門医試験の受験のためには、以下の条件が満たされる必要があります。チェックリストとして利用して下さい。

1		「小児科専門医の役割」に関する目標達成（研修手帳）
2		「経験すべき症候」に関する目標達成（研修手帳）
3		「経験すべき疾患」に関する目標達成（研修手帳）
4		「習得すべき診療技能と手技」に関する目標達成（研修手帳）
5		Mini-CEX による評価（年 2 回、合計 6 回、研修手帳）
6		360 度評価（年 1 回、合計 3 回）
7		30 症例のサマリー（領域別指定疾患を含むこと）
8		講習会受講：医療安全、医療倫理、感染防止など
9		筆頭論文 1 編の執筆（小児科関連論文、査読制度のある雑誌掲載）

7. 専門研修プログラム管理委員会

7-1 専門研修プログラム管理委員会の業務

本プログラムでは、基幹施設である順天堂大学医学部附属順天堂医院小児科に、基幹施設の研修担当委員および各連携施設での責任者から構成され、専門研修プログラムを総合的に管理運営する「専門研修プログラム管理委員会」を、また連携施設には「専門研修連携施設プログラム担当者」を置いています。プログラム統括責任者は研修プログラム管理委員会を定期的開催し、以下の(1)～(10)の役割と権限を担います。専門研修プログラム管理委員会の構成メンバーには、医師以外に、看護部、病院事務部、薬剤部、検査部などの多種職が含まれます。

<研修プログラム管理委員会の業務>

- 1) 研修カリキュラムの作成・運用・評価
- 2) 個々の専攻医に対する研修計画の立案
- 3) 研修の進捗状況の把握（年度毎の評価）
- 4) 研修修了認定（専門医試験受験資格の判定）
- 5) 研修施設・環境の整備
- 6) 指導体制の整備（指導医FDの推進）
- 7) 学会・専門医機構との連携、情報収集
- 8) 専攻医受け入れ人数などの決定
- 9) 専門研修を開始した専攻医の把握と登録
- 10) サイトビジットへの対応

7-2 専門医の就業環境（統括責任者、研修施設管理者）

本プログラムの統括責任者と研修施設の管理者は、専攻医の勤務環境と健康に対する責任を負い、専攻医のために適切な労働環境の整備を行います。専攻医の心身の健康を配慮し、勤務時間が週80時間を越えないよう、また過重な勤務にならないよう、適切な休日の保証と工夫を行うよう配慮します。当直業務と夜間診療業務の区別と、それぞれに対応した適切な対価の支給を行い、当直あるいは夜間診療業務に対しての適切なバックアップ体制を整備します。研修年次毎に専攻医および指導医は専攻医指導施設に対する評価も行い、そこには労働時間、当直回数、給与など、労働条件についての内容が含まれ、その内容は順天堂大学医学附属病院群小児科専門研修管理委員会に報告されます。

7-3 専門研修プログラムの改善

- 1) 研修プログラム評価（年度毎）：専攻医はプログラム評価表（下記）に記載し、毎年1回（年度末）順天堂大学研修管理委員会に提出してください。専攻医からプログラム、指導体制等に対して、いかなる意見があっても、専攻医はそれによる不利益を被ることはありません。

「指導に問題あり」と考えられる指導医に対しては、基幹施設・連携施設のプログラム担当者、あるいは研修管理委員会として対応措置を検討します。問題が大きい場合、専攻医の安全を守る必要がある場合などには、専門医機構の小児科領域研修委員会の協力を得て対応します。

年度 順天堂大学医学附属病院群小児科研修プログラム評価		
専攻医氏名		
研修施設	〇〇病院	△△病院
研修環境・待遇		
経験症例・手技		
指導体制		
指導方法		
自由記載欄		

研修プログラム評価（3年間の総括）：3年間の研修修了時には、当プログラム全般について研修カリキュラムの評価を記載し、専門医機構へ提出してください。（小児科臨床研修手帳）

＜研修カリキュラム評価（3年間の総括）＞		
A 良い B やや良い C やや不十分 D 不十分		
項目	評価	コメント
子どもの総合診療		
成育医療		
小児救急医療		
地域医療と社会資源の活用		
患者・家族との信頼関係		
プライマリ・ケアと育児支援		
健康支援と予防医療		
アドヴォカシー		
高次医療と病態研究		
国際的視野		
医の倫理		
省察と研鑽		
教育への貢献		
協働医療		
医療安全		
医療経済		
総合評価		
自由記載欄		

- 2) サイトビジット：専門医機構によるサイトビジット（ピアレビュー、7-6参照）に対しては研修管理委員会が真摯に対応し、専門医の育成プロセスの制度設計と専門医の育成が保証されているかのチェックを受け、プログラムの改善に繋がります。また、専門医機構・日本小児科学会全体としてプログラムの改善に対して責任をもって取り組みます。

7-4 専攻医の採用と修了

- 1) 受け入れ専攻医数：本プログラムでの毎年の専攻医募集人数は、専攻医が3年間の十分な専門研修を行えるように配慮されています。本プログラムの指導医総数は54名（基幹施設24名、連携施設23名、関連施設7名）ですが、整備基準で定めた過去3年間の小児科専門医の育成実績（専門医試験合格者数の平均+5名程度以内）から16名を受け入れ人数とします。

受け入れ人数	16名
--------	-----

- 2) 採用：順天堂大学医学部附属病院群小児専門研修プログラムを2016年8月1日から順天堂大学小児科のホームページ（<http://www.juntendo.ac.jp/hospital/clinic/shonika/>）に公表しています（2021年7月更新）。

研修プログラムへの応募者は、応募開始となりましたらプログラム統括責任者（清水）宛てに所定の「応募申請書」を郵送してください。郵送の旨をメールにてお知らせ頂きますと幸いです。応募申請書は上記ホームページよりダウンロードしてご使用頂くか、電話03-3813-3111（内線 3325, 3326）あるいはmail：tshimizu@juntendo.ac.jpにご請求ください。

定員以内であれば原則書類選考で採否を決定し文書で本人に通知します。

なお、定員に空きがある場合は、二次募集および三次募集も行う予定であります（詳細は後日公表）。

- 2) 研修開始届け：研修を開始した専攻医は、指定の期日（現在未定）までに以下の専攻医報告書を、順天堂大学医学部附属病院群小児科専門研修プログラム管理委員会（tshimizu@juntendo.ac.jp）に提出してください。専攻医報告書：医籍登録番号・初期研修修了証・専攻医の研修開始年度、専攻医履歴書をご提出頂きます。
- 3) 修了（6修了判定参照）：毎年1回、研修管理委員会で各専攻医の研修の進捗状況、能力の修得状況を評価し、専門研修3年修了時に、小児科専門医の到達目標にしたがって達成度の総括的評価を行い、修了判定を行います。修了判定は、専門研修プログラム管理委員会の評価に基づき、プログラム統括責任者が行います。「妊娠・出産、産前後に伴う研修期間の休止」、「疾病での休止」、「短時間雇用形態での研修」、「専門研修プログラムを移動する場合」、「その他一時的にプログラムを中断する場合」に相当する場合は、その都度諸事情および研修期間等を考慮して判定します。

7-5 小児科研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件

- 1) 研修の休止・中断期間を除いて3年以上の専門研修を行わなければなりません。勤務形態は問いませんが、専門医研修であることを統括責任者が認めることが絶対条件です（大学院や留学などで常勤医としての勤務形態がない期間は専門研修期間としてはカウントされません）。
- 2) 出産育児による研修の休止に関しては、研修休止が6か月までであれば、休止期間以外での規定の症例経験がなされ、診療能力が目標に到達しているとプログラム管理委員会が判断すれば、3年間での専攻医研修修了を認めます。
- 3) 病気療養による研修休止の場合は、研修休止が3か月までであれば、休止期間以外で規定の症例経験がなされ、診療能力が目標に到達しているとプログラム管理委員会が判断すれば、3年間での専攻医研修修了を認めます。
- 4) 諸事情により専門医研修プログラムを中断し、プログラムを移動せざるをえない場合には、日本専門医機構内に組織されている小児科領域研修委員会へ報告、相談し、承認された場合には、プログラム統括責任者同士で話し合いを行い、専攻医のプログラム移動を行います。

7-6 研修に対するサイトビジット

研修プログラムに対する外部からの監査・調査に対して、基幹施設および連携施設の責任者は真摯に対応します。日本専門医機構からのサイトビジットにあたっては、求められた研修関連の資料等を提出し、また、専攻医、指導医、施設関係者へのインタビューに応じ、サイトビジットによりプログラムの改善指導を受けた場合には、専門研修プログラム管理委員会が必要な改善を行います。

8. 専門研修実績記録システム、マニュアル等

専門研修実績記録システム（様式）、研修マニュアル、指導医マニュアルは別途定めます。

研修マニュアル目次

- 序文（研修医・指導医に向けて）
- ようこそ小児科へ
- 小児科専門医概要
- 研修開始登録（プログラムへの登録）
- 小児科医の到達目標の活用（小児科医の到達目標 改定第6版）
- 研修手帳の活用と研修中の評価（研修手帳 改定第3版）
- 小児科医のための医療教育の基本について
- 小児科専門医試験告示、出願関係書類一式、症例要約の提出について
第11回（2017年）以降の専門医試験について
- 専門医 新制度について
- 参考資料
小児科専門医制度に関する規則、施行細則
専門医にゆーす No.8, No.13
- 当院における研修プログラムの概要（モデルプログラム）

9. 専門研修指導医

指導医は、臨床経験10年以上（小児科専門医として5年以上）の経験豊富な小児科専門医で、適切な教育・指導法を習得するために、日本小児科学会が主催する指導医講習会もしくはオンラインセミナーで研修を受け、日本小児科学会から指導医としての認定を受けています。

10. Subspecialty 領域との連続性

現在、小児科に特化した Subspecialty 領域としては、小児神経専門医（日本小児神経学会）、小児循環器専門医（日本小児循環器病学会）、小児血液・がん専門医（日本小児血液がん学会）、新生児専門医（日本周産期新生児医学会）の4領域があります。

本プログラムでは、基本領域の専門医資格取得から、Subspecialty 領域の専門研修へと連続的な研修が可能となるように配慮します。Subspecialty 領域の専門医資格取得の希望がある場合、3年間の専門研修プログラムの変更はできませんが、可能な範囲で専攻医が希望する subspecialty 領域の疾患を経験できるよう、当該 Subspecialty 領域の指導医と相談しながら研修計画を立案します。

（ただし、基本領域専門研修中に経験した疾患は、Subspecialty 領域の専門医資格申請に使用できない場合があります。）

順天堂医院小児科には各 Subspecialty 領域の専門医・指導医が多数在籍しており、多くの分野の教育施設に認定されているため、小児科専門医取得後、将来的に Subspecialty 領域の専門医資格申請への橋渡しがスムーズに可能です。

【順天堂医院】(1) 日本てんかん学会教育認定施設、(2) 日本小児循環器専門医修練施設、(3) 小児血液がん専門医研修施設、(4) 日本周産期・新生児医学会新生児専門医研修施設、(5) 日本感染症学会認定教育施設、(6) アレルギー専門医教育研修施設、(7) 日本消化管学会胃腸科指導施設、(8) 日本病態栄養学会病態栄養専門医認定教育施設、(9) 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医（小児科）認定教育施設

【順天堂大学附属浦安病院】日本周産期・新生児医学会新生児専門医研修施設、アレルギー専門医教育研修施設、小児神経専門医研修認定施設

【順天堂大学附属練馬病院】小児神経専門医研修認定施設

【順天堂大学附属静岡病院】日本周産期・新生児医学会新生児専門医研修施設

以上

新専門医制度下の順天堂大学小児科カリキュラム制(単位制)による研修制度

I. はじめに

1. 順天堂大学小児科の専門研修は「プログラム制」を基本とする。
2. 順天堂大学小児科の専門研修における「カリキュラム制(単位制)」は、「プログラム制」で研修を行うことが適切でない合理的な理由がある場合に対する「プログラム制」を補完する制度である。

II. カリキュラム制(単位制)による研修制度

1. 方針

- 1) 順天堂大学小児科の専門研修は「プログラム制」を基本とし、「プログラム制」で研修を行うことが適切でない合理的な理由がある場合には、「カリキュラム制(単位制)」による研修を選択できる。
- 2) 期間の延長により「プログラム制」で研修を完遂できる場合には、原則として、「プログラム制」で研修を完遂することを推奨する。
- 3) 小児科専門研修「プログラム制」を中断した専攻医が専門研修を再開する場合には、原則として、「プログラム制」で研修を再開し完遂することを推奨する。
- 4) カリキュラム制による専攻医は基幹施設の指導責任医の管理を受け、基幹施設・連携施設で研修を行う。

2. カリキュラム制(単位制)による研修制度の対象となる医師

- 1) 義務年限を有する医科大学卒業生、地域医療従事者(地域枠医師等)
- 2) 出産、育児、介護、療養等のライフイベントにより、休職・離職を選択する者
- 3) 海外・国内留学する者
- 4) 他科基本領域の専門研修を修了してから小児科領域の専門研修を開始・再開する者
- 5) 臨床研究医コースの者
- 6) その他、日本小児科学会と日本専門医機構が認めた合理的な理由のある場合

※ II. 2. 1) 2) 3) の者は、期間の延長による「プログラム制」で研修を完遂することを原則とするが、期間の延長による「プログラム制」で研修を完遂することができない場合には、「カリキュラム制(単位制)」による研修を選択できる。

Ⅲ. カリキュラム制(単位制)における専門医認定の条件

1. 順天堂大学小児科のカリキュラム制(単位制)における専門医認定の条件は、以下の全てを満たしていることである。
 - 1) 日本小児科学会の定めた研修期間を満たしていること
 - 2) 日本小児科学会の定めた診療実績および臨床以外の活動実績を満たしていること
 - 3) 研修基幹施設の指導医の監督を定期的に受けること
 - 4) プログラム制と同一またはそれ以上の認定試験に合格すること

Ⅳ. カリキュラム制(単位制)における研修

1. カリキュラム制(単位制)における研修施設

- 1) 「カリキュラム制(単位制)」における研修施設は、順天堂大学小児科(以下、基幹施設)および専門研修連携施設(以下、連携施設)とする。

2. 研修期間として認める条件

- 1) プログラム制による小児科領域の「基幹施設」または「連携施設」における研修のみを、研修期間として認める。
 - ① 「関連施設」における勤務は研修期間として認めない。
- 2) 研修期間として認める研修はカリキュラム制に登録してから10年間とする。
- 3) 研修期間として認めない研修
 - ① 他科専門研修プログラムの研修期間
 - ② 初期臨床研修期間

3. 研修期間の算出

- 1) 基本単位
 - ① 「フルタイム」で「1ヶ月間」の研修を1単位とする。
- 2) 「フルタイム」の定義
 - ① 週31時間以上の勤務時間を職員として所属している「基幹施設」または「連携施設」での業務に従事すること。
- 3) 「1ヶ月間」の定義
 - ① 暦日(その月の1日から末日)をもって「1ヶ月間」とする。
- 4) 非「フルタイム」勤務における研修期間の算出

	「基幹施設」または「連携施設」 で職員として勤務している時間	「1ヶ月」の研修単位
フルタイム	週 31 時間以上	1 単位
非フルタイム	週 26 時間以上 31 時間未満	0.8 単位
	週 21 時間以上 26 時間未満	0.6 単位
	週 16 時間以上 21 時間未満	0.5 単位
	週 8 時間以上 16 時間未満	0.2 単位
	週 8 時間未満	研修期間の単位認定なし

※「小児専従」でない期間の単位は 1/2 を乗じた単位数とする

5) 職員として所属している「基幹施設」または「連携施設」での日直・宿直勤務における研修期間の算出

① 原則として、勤務している時間として算出しない。

(1) 診療実績としては認められる。

6) 職員として所属している「基幹施設」または「連携施設」以外での日勤・日直(アルバイト)・宿直(アルバイト)勤務における研修期間の算出

① 原則として、研修期間として算出しない。

(1) 診療実績としても認められない。

7) 産休・育休、病欠、留学の期間は、その研修期間取り扱いをプログラム制同様、最大6か月までを算入する

8) 「専従」でない期間の単位は、1/2 を乗じた単位数とする。

4. 必要とされる研修期間

1) 「基幹施設」または「連携施設」における 36 単位以上の研修を必要とする。

① 所属部署は問わない

3) 「基幹施設」または「連携施設」において、「専従」で、36 単位以上の研修を必要とする。

3) 「基幹施設」または「連携施設」としての扱い

① 受験申請時点ではなく、専攻医が研修していた期間でのものを適応する。

5. 「専従」として認める研修形態

1) 「基幹施設」または「連携施設」における「小児部門」に所属していること。

① 「小児部門」として認める部門は、小児科領域の専門研修プログラムにおける

「基幹施設」および「連携施設」の申請時に、「小児部門」として申告された部門と

する。

2) 「フルタイム」で「1ヶ月間」の研修を1単位とする。

①職員として勤務している「基幹施設」または「連携施設」の「小児部門」の業務に、週31時間以上の勤務時間を従事していること。

②非「フルタイム」での研修は研修期間として算出できるが「専従」としては認めない。

(1) ただし、育児・介護等の理由による短時間勤務制度の適応者の場合のみ、非「フルタイム」での研修も「専従」として認める。

i) その際における「専従」の単位数の算出は、IV. 3. 4) の非「フルタイム」勤務における研修期間の算出表に従う。

3) 初期臨床研修期間は研修期間としては認めない。

V. カリキュラム制(単位制)における必要診療実績および臨床以外の活動実績

1. 診療実績として認める条件

1) 以下の期間の経験のみを、診療実績として認める。

①職員として勤務している「基幹施設」および「連携施設」で、研修期間として算出された期間内の経験症例が、診療実績として認められる対象となる。

2) 日本小児科学会の「臨床研修手帳」に記録、専門医試験での症例要約で提出した経験内容を診療実績として認める。

① ただし、プログラム統括責任者の「承認」がある経験のみを、診療実績として認める。

4) 有効期間として認める診療実績は受験申請年の3月31日時点からさかのぼって10年間とする。

4) 他科専門プログラム研修期間の経験は、診療実績として認めない。

2. 必要とされる経験症例

1) 必要とされる経験症例は、「プログラム制」と同一とする。 《「プログラム制」参照》

3. 必要とされる臨床以外の活動実績

1) 必要とされる臨床以外の活動実績は、「プログラム制」と同一とする。

《「プログラム制」参照》

4. 必要とされる評価

1) 小児科到達目標25領域を終了し、各領域の修了認定を指導医より受けること
各領域の領域到達目標及び診察・実践能力が全てレベルB以上であること

- 2) 経験すべき症候の 80%以上がレベル B 以上であること
- 3) 経験すべき疾患・病態の 80%以上を経験していること
- 4) 経験すべき診療技能と手技の 80%以上がレベル B 以上であること
- 5) Mini-CEX 及び 360 度評価は 1 年に 1 回以上実施し、研修修了までに Mini-CEX 6 回以上、360 度評価は 3 回以上実施すること
- 6) マイルストーン評価は研修修了までに全ての項目がレベル B 以上であること

VI. カリキュラム制(単位制)による研修開始の流れ

1. カリキュラム制(単位制)による研修の新規登録

1) カリキュラム制(単位制)による研修の登録

① カリキュラム制(単位制)による研修を希望する医師は、日本専門医機構の「カリキュラム制(単位制)による研修」として新規登録する。また「小児科専門医新規登録カリキュラム制(単位制)による研修開始の理由書」《別添》を、学会に申請し許可を得る。

② 「小児科専門医新規登録カリキュラム制(単位制)による理由書」には、下記の項目を記載しなければならない。

(1) 「プログラム制」で研修を行うことが適切でない合理的な理由

(2) 主たる研修施設

i) 管理は基幹施設が行い、研修は基幹施設・連携施設とする。

2) カリキュラム制(単位制)による研修の許可

① 日本小児科学会および日本専門医機構は、カリキュラム制研修を開始する理由について審査を行い、II. 2) に記載のある理由に該当する場合は、研修を許可する。

2. 小児科専門研修「プログラム制」から小児科専門研修「カリキュラム制(単位制)」への移行登録

1) 小児科専門研修を「プログラム制」で研修を開始するも、研修期間途中において、期間の延長による「プログラム制」で研修ができない合理的な理由が発生し「カリキュラム制(単位制)」での研修に移行を希望する研修者は、小児科専門研修「プログラム制」から「カリキュラム制(単位制)」への移行登録の申請を行う。

2) 小児科専門研修「プログラム制」から「カリキュラム制(単位制)」への移行の申請

① カリキュラム制(単位制)による研修を希望する医師は、「小児科専門医制度移行登録カリキュラム制(単位制)による研修開始の理由書」《別添》を、日本小児科学会及び日本専門医機構に申請する。

② 「小児科専門医制度移行登録カリキュラム制(単位制)による理由書」には、下記の

項目を登録しなければならない。

(1) 「プログラム制」で研修を完遂することができない合理的な理由

(2) 主たる研修施設

i) 主たる研修施設は「基幹施設」もしくは「連携施設」であること。

3) カリキュラム制(単位制)による研修の移行の許可

① 学会および専門医機構は、カリキュラム制研修を開始する理由について審査を行い、

II. 2)に記載のある理由に該当する場合は、研修を許可する。

② 移行登録申請者が、学会の審査で認定されなかった場合は、専門医機構に申し立てることができる。

(1) 再度、専門医機構で移行の可否について、日本専門医機構カリキュラム委員会(仮)において、審査される。

4) カリキュラム制(単位制)による研修の登録

① カリキュラム制(単位制)による研修への移行の許可を得た医師は、日本専門医機構の「カリキュラム制(単位制)による研修」として、移行登録する。

5) 「プログラム制」から「カリキュラム制(単位制)」への移行にあたっての研修期間、診療実績の取り扱い

① 「プログラム制」時の研修期間は、「カリキュラム制(単位制)」への移行後においても研修期間として認める。

② 「プログラム制」時の診療実績は、「カリキュラム制(単位制)」への移行後においても診療実績として認める。

(1) ただし「関連施設」での診療実績は、「カリキュラム制(単位制)」への移行にあたっては、診療実績として認めない。

3. 小児科以外の専門研修「プログラム制」から小児科専門研修「カリキュラム制(単位制)」への移行登録

1) 小児科以外の専門研修「プログラム制」から小児科専門研修「カリキュラム制(単位制)」への移行は認めない。

① 小児科以外の専門研修「プログラム制」の辞退者は、あらためて、小児科専門研修「プログラム制」で研修を開始するか、もしくはVI. 1に従い小児科専門研修「カリキュラム制(単位制)」にて、専門研修を開始する。

4. 「カリキュラム制(単位制)」の管理

1) 研修全体の管理・修了認定は「プログラム制」と同一とする。《「プログラム制」参照》

《別添》 「小児科専門医新規登録 カリキュラム制(単位制)による研修の理由書」および
「小児科専門医制度移行登録 カリキュラム制(単位制)による研修の理由書」

小児科専門医新規登録

カリキュラム制（単位制）による研修開始の理由書

日本小児科学会 気付 日本専門医機構 御中

小児科研修プログラムで研修することが不可能であるため、カリキュラム制（単位制）で小児科専門医の研修を開始したく、理由書を提出します

記入日（西暦） 年 月 日

●申請者氏名（署名）

●勤務先

施設名：

科・部名：

〒：

TEL：

●プログラム制での研修ができない理由 ※理由を証明する書類を添付すること

1) 義務年限を有する医科大学卒業生、地域医療従事者（地域枠医師等）

2) 出産、育児、介護、療養等のライフイベント

3) 海外・国内留学

4) 他科基本領域の専門医を取得

5) その他上記に該当しない場合

●理由詳細

●他科基本領域専門研修プログラムでの研修歴について

他科基本領域専門研修プログラムに登録したことがある（はい・いいえ）

はいの場合、基本領域名（ 科）

研修状況（中途辞退 ・ 中断 ・ 修了）

主たる研修施設

上記の者が小児科カリキュラム制（単位制）での研修を開始することを承諾いたします

基幹施設名／連携施設名 _____

プログラム統括責任者（署名） _____ (印)

プログラム統括責任者の小児科専門医番号 _____

小児科専門医新制度移行登録

小児科カリキュラム制（単位制）での研修開始の理由書

日本小児科学会 気付 日本専門医機構 御中

小児科研修プログラムで研修することが不可能であるため、カリキュラム制（単位制）で小児科専門医の研修を移行したく、理由書を提出します

記入日（西暦） 年 月 日

●申請者氏名（署名）

●勤務先

施設名：

科・部名：

〒：

TEL：

●プログラム制での研修ができない理由 ※理由を証明する書類を添付すること

1) 義務年限を有する医科大学卒業生、地域医療従事者（地域枠医師等）

2) 出産、育児、介護、療養等のライフイベント

3) 海外・国内留学

4) 他科基本領域の専門医を取得

5) その他（パワハラ等を受けた等）

●理由詳細

●他科基本領域専門研修プログラムでの研修歴について

他科基本領域専門研修プログラムに登録したことがある（はい・いいえ）

はいの場合、基本領域名（ 科）

研修状況（中途辞退 ・ 中断 ・ 修了）

主たる研修施設

上記の者が小児科カリキュラム制（単位制）での研修を開始することを承諾いたします

基幹施設名／連携施設名 _____

プログラム統括責任者（署名） _____ (印)

プログラム統括責任者の小児科専門医番号 _____